

「教育と公共」研究部会（第37回）

日時：2022年6月24日（金）13:30～16:40

場所：野間教育研究所（対面）＋オンライン（Zoom使用）

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・田嶋一・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）狩野研究員：「第8回島小公開研究会〈教材の解釈と展開〉国語授業案 武田常夫」

本発表では第8回目の公開研究会（昭和37年）における武田常夫の“授業案”をもとに、島小の授業づくりの実態を検討。参考文献：『増補島小研究報告』第7巻、1996年、大空社

1. 題材：「おしになった娘」松谷みよこ作
2. 教師の解釈：
3. 授業展開の角度
4. 全体の指導計画（11時予定）
5. この時間の展開計画

（2）上野研究員：「アメリカの進歩主義教育運動とデューイ」

第一次世界大戦以前：産業教育や職業教育を擁護→伝統的な学問的カリキュラムには変化が起きなかった。第一次世界大戦後：①社会的効率主義のカリキュラムを要求 ②子ども中心の学校教育の影響を私立から公立へ拡大→学校に直接影響を与えることはなく、教師や親からは抵抗にあった。しかし、進歩的な教育者たちは、この進歩の流れは止まることなく、どんな抵抗も必ず屈することになると確信していた。

1. 社会効率主義のカリキュラム：カリキュラム研究の誕生
2. ジョン・デューイと子ども中心主義：子ども中心のカリキュラム
3. シカゴのデューイ・スクール：アメリカで子ども中心の学校教育に影響を与えた手本
4. 明日の学校：デューイ、エベリン『明日の学校』（1915）
5. 明日キルパトリックとプロジェクト・メソッド
6. リンカーン・スクール
7. カリキュラム改訂運動の普及
8. ハロルド・ラッグとカリキュラム改革
9. 公立学校におけるカリキュラム改訂
10. 批判的な意見